



謎の超笑力をもつ大魔王が、あなたに贈る不思議なムダ話

発行：トラベル・ミトラ・ジャパン (E-mail : daimao@travelmitra.jp)

ぼん子画

(570-0041) 大阪市北区天神橋 1-18-25 第3 マツイ・ビル 201 TEL : 06-6354-3011

お笑いエッセイのメール発信をご希望の方は、ご連絡下さい。(E-mail : daimao@travelmitra.jp)

「お陰さまカルマ ②」

カルマには次の三つがある。

1. サンチタ・カルマ (過去世)
2. プラーラブダ・カルマ (現世)
3. アーガミ・カルマ (来世)

サンスクリットで表すと、何やら深い意味があるかも、と思うかもしれないが、何のことはない過去・現在・未来のことである。種を蒔く (過去)、実をむすぶ (現在)、果実になる (未来)、と譬えられる。

種を蒔くのが「原因」、それが「結果」として現在に現れる。その「結果」がまた原因となって「結果」を生じる。

カルマの本来の意味は「行為」である。何かをすれば、その結果が現れる。結果は良いこともあるし、悪いこともある。

小学生のとき級友が突然殴りかかってきたことがある。全く理由がわからず逃げたことがある。わが輩が気づかずに何か意地悪なことをしたのか？ わが輩は小学生のとき勉強はまあまあだったが女子にもてた。それで嫉妬したのか。全く分からなかった。この場合、結果だけ理解できたが、原因が分からなかった。

原因はまもなくして分かった。今度は他の級友に殴り掛かったからである。エリート家庭のストレスを抱えていて、級友にあたることで発散させようとしたのである。ちなみに、わが輩を救ってくれたのは女子である。

女子とわが輩の関係は、原因と結果で理解できる。わが輩は女子に優しくかったから災難のとき女子が救ってくれた。優しいのが「原因」、救われたのが「結果」である。

しかし、エリート坊ちゃんとわが輩の関係は、意味不明である。家庭内のストレスを原因として、関係のないわが輩に結果が現れるのは納得できない。インド的にいうなら坊ちゃんとわが輩は前世で兄弟であった。そのとき、兄であるわが輩が弟である彼の玩具を壊した。その反動 (結果) が今生で現れた。実に明解な解答である。

読者諸氏よ。こんな解答で満足できるかい？

しかしながらインド宗教熱中派には疑問をもたない者がいる。たしかに読み物としては面白いが、物語の本意を読み取れないと道に迷うことがある。

原因と結果という、わが輩はブツダの教えを思い出す。実はわが輩は2月5日から8日間ベナレスに行ってきた。そこで講義を4回受けてきた。演題は「アーリヤ・サティヤ」だと連絡がきたとき、わが輩にはその知識がなかった。そのうち正確な演題が「チャトゥル・アーリヤ・サティヤ」と分かった。チャトゥルは四、アーリヤは貴い、サティヤは真実を意味している。なんのことはない「四諦八正道」のことである。

(なあ〜んだ。それなら知っているよ)

仏教の基礎知識である。基礎だと思って流し読みをしていたので、理解していたわけではないことを、今回知ることになった。これにはお寺さんにも責任がある。この基礎知識をあまり檀信徒に教えることがないのではないか。やはりお寺さんも基礎知識だと思って軽視しているのではないか、と思っただ次第である。

ところで、四諦八正道の四諦とはなにか。

1. 苦くしょうたい聖諦：苦しみは厳然たる真実。
2. 苦くじつたい集諦：その原因を探ると渴愛（生存欲）にある。
3. 苦くめつたい滅諦：その渴愛を滅ぼせば苦しみも滅びる。
4. 苦くめつどうしょうたい滅道聖諦：その解決のために八つの方法がある。

ブツダは徹底的に考えた。なぜわれわれは苦しむのか。その原因を徹底的に探ると愛着執着にあることが分かった。それならそれらを無くせば苦から解放される、というわけである。

原因は愛着心執着心、その結果が「苦」（ドゥッカ）なら、原因を断てば結果が消える。簡単な話である。

こんな簡単なことよりももっと深い哲理を学ぶべきだと思っていた。それが大きな間違いであった。初段階に誤りがあった。

一昨年は愚息韋駄天が悩みの種であった。それによって大事なものを失った。今年は愚娘シーター姫が新たなる悩みの種を蒔いてくれた。

また昨年は先輩同級生の消滅がつづき、わが輩にも閻魔大王が近づきつつある。避けがたき最大の苦である。このように、われわれは「苦」とともにある。それ故に、われわれは「苦」をよく理解している、と思っていた。

ところが、わが輩に衝撃的な一打が加えられた。

「ヨーガ行者だけが本当の「苦」を知ることができる」

われら凡人は日々苦しんでいるが、その「苦」の正体を本当は知らないのである。「苦」の正体を実感できなければ、前進できない。わが輩が知ることができるのは、輪廻の世界を迷うことだけかもしれない。